

赤れんが通信



北海道庁の金昭賢(キム・ソヒョン)国際交流員が、韓国の友好地域との交流事業及び北海道の情報などについて書いたレポートをご紹介します。

5年目の国際交流員最後の年になりました。週末にはあちこちでイベントが開催され、どこもかしこも人で賑わうことを見ていると、4年前から猛威を振っていた新型コロナウイルスの存在感はだんだん薄くなっているような気がします。日常を取り戻すまでかなりの時間がかかりましたが、対面交流も生活も活気が戻ってきていてほっとしています。今年度も北海道や日本に関する興味深いニュースをお伝えし、有終の美を飾れるよう努力してまいりたいと思います。

北海道は進化中！



▲建物の老朽化で5月16日閉店した
札幌市内の商業施設「ピヴォ」

韓国には「10年あれば江山も変わる」という諺がありますが、私が国際交流員として働き始めたわずか4年前と比べてみても多くの変化があったと思います。代表的には、「平成」から「令和」に変わった年号、消費税や物価の上昇、キャッシュレス決済の大衆化、新型コロナウイルスによる在宅勤務やオンライン授業の導入などが考えられます。

現在、札幌市内は再開発に拍車がかかり、市民と長い間を共にしてきた繁華街の古い建物は次々と歴史の中に消えています。札幌駅も2030年末に開通が予定されている北海道新幹線の駅舎を建設するための拡張工事に入りました。今年の8月には、札幌駅前バスターミナルやエスタも閉店することになります。思い出の場所が一つずつなくなるのは残念ですが、これから変化していく街の風景も楽しみです。

「自動販売機の天国」日本

日本の街には自動販売機があふれています。私は日本に初めて来たとき自動販売機でタバコやビールまで販売していることを見て驚きました。



日本の自動販売機は様々な商品を取り扱います。果物やサンドイッチをはじめ、家庭で調理できるラーメンや鍋、家飲みのおつまみや冷凍肉、卵まで売っているので、自動販売機の商品だけで生活ができるような気もします。最近はキャラクターのグッズや透明パッケージに入ったデザートなど、若者向けの商品もたくさん見られます。

日本のある飲料メーカーは、法人向け自動販売機を発売しました。社員2人がこの自動販売機に社員証を同時にかざすと飲み物が無料で受け取れる仕組みですので、職場内のコミュニケーションを活性化させる効果が期待されると言われます。



韓国のオフィスにはウォーターサーバーやコーヒーマシン、お菓子などが置いてあるのが普通ですが、日本にはウォーターサーバーもない場合が多く、各自飲み物を買ってきたり、自動販売機を利用するしかないのも、職員が喜ぶ福利厚生ではないかと思えます。

最近、私の印象に残った自動販売機は、繁華街で偶然見かけた「昆虫食」自動販売機と北海道の道の駅「るもい」の「子育て応援自販機」です。



子育て応援自販機では紙おむつや液体ミルク、おしりふきを購入することができます。この道の駅にはプリンやカップケーキ、地域の特産品である数の子の加工品などを販売するユニークな自動販売機もありました。JR留萌本線は廃止されましたが、留萌を訪問する機会がありましたら、是非道の駅にも立ち寄ってみてください！

夢の新球場 「エスコンフィールド北海道」



今年3月に開場した「エスコンフィールド北海道」は、プロ野球チーム「北海道日本ハムファイターズ」のホームグラウンドであり、最近注目が集まる新しい施設です。収容人数は、球場が所在する北広島市の人口の6割に当たる3万5千人だそうです。この巨大な球場は地域経済にも大きな影響を及ぼしました。札幌のベッドタウンだった北広島市の急速な開発を促進させたことにより、この地域の住宅地や商業地の公示地価は共に全国1位の上昇率を記録することになりました。今後、各種商業施設や球場に隣接するJRの新駅(2028年開業予定)なども続々と建設される予定で、北広島地域はこれから更に活気を帯びると見込まれます。

見どころと楽しみが満載！

皆さん、野球は好きですか？私の地元にはネクセン・ヒーローズ(現 キウム・ヒーローズ)の球場があって、試合の日は町中が大騒ぎになりましたが、私は韓国で野球を見に行ったことが一回しかありませんでした。更に、野球ファンではない私にとって野球場はあまり魅力な場所でもありませんでした。しかし、私は今回エスコンフィールド北海道の見学に行って新しい世界を経験しました。Fビレッジ(球場の敷地)にはバーベキューや宿泊ができるグランピング場をはじめ、噂で聞いた球場内温泉やホテル、出来立てのビールが味わえるクラフトビール工場など、様々な施設があったからです。



▲球場内の人気フォトスポット (TOWER 11 1階 コンコース側壁面)

TOWER 11の4階にあるホテルの「フィールドビュー」客室では、ガラス越しにグラウンドが見えます。世界的に有名な大谷とダルビッシュ選手をテーマとした客室が特に人気だそうです。因みに、「11」は二人の選手の日本ハム時代の背番号です。

球場は年中無休で営業されるので、試合がない日もファイターズガールが球場を案内してくれるツアーの参加や商業施設の利用が可能です。プレミアムツアーでは監督室、ロッカールーム、ブルペン、グラウンドなど、普段公開されない場所にも入ることができます。[プレミアムツアー料金：大人(平日) 3,500円(土日祝) 4,500円 / 子ども 1,000円]

韓国の球場の定番メニューはチキン、ハンバーガー、サムギョプサルだと聞きましたが、日本の球場には寿司やラーメン、焼き鳥、たこ焼きなどがありました。食べ物をテイクアウトできる店舗がある一方、テラスで焼き肉をしたり、おしゃれな雰囲気の中でフランス料理が食べれるレストランもあって、Fビレッジはグルメスポットとしても遜色がないと思いました。



▲温泉風呂から眺めるグラウンドの風景

エスコンフィールド北海道は、温泉とサウナを楽しみながら試合を観戦できる世界初の球場です。TOWER 11の3階に位置する「onsen & sauna」では天然温泉に浸かりながら温泉と球場の雰囲気と同時に満喫できます。(水着着用が必要)

みんなで楽しむボールパーク！

取材日は平日にも関わらず、お子さん連れの家族がたくさんいました。1階には、土に触れる屋外遊び場やおもちゃと遊具のある室内空間など、お子さんが楽しく時間を過ごせる施設が設けられていました。親が子どもたちを見守りながら、一緒に遊んでいる他の友だちへの配慮や譲り合いを教えていることも印象的でした。



▲ファミリーストア (子ども向けグッズ売り場)

2階のミュージアムでは「命」をテーマとする有料展示が行われていました。「万物は繋がっているので、人間は自然の一部でもあるが、個々人はそれぞれが一つの宇宙でもある」ことを考えさせる奥深い内容でした。



球場内の付帯施設だと思えないほど充実した空間であるためか、先生と見学に来た子供たちがいました。

エスコンフィールド北海道は、どこにいてもグラウンドが見える開放的な構造となっているなど、「みんなにオープンされた空間」であり、「それぞれの楽しさがある場所」だと思いました。ペットと試合が見られる専用席があるのも驚きでした。今年の夏にはキャンプ体験、花火大会など、多彩なイベントも予定されているそうですので、近いうちにまた訪問してみたいと思いました。



野生動物注意報

北海道では、ヒグマの市街地出没や人身被害等が発生した際に「ヒグマ注意報」「ヒグマ警報」を発出し、SNSなどを活用して情報発信しています。

市街地の周辺も含め、北海道各地では、ヒグマの出没が多発しています。ヒグマによる人身被害は山間地域に限らず、市街地や人里付近の森林でも発生する恐れがあります。

これからの時期、登山やキャンプを楽しむ際には「食べ物やゴミは必ず持ち帰る」、「薄暗いときには行動しない」、「鈴や笛で人の存在を知らせる」、「複数人で行動する」、「万が一のためにクマ撃退スプレーを携帯する」などヒグマに遭わないための行動を心がける必要があります。



カラスにも気を付けなければなりません。外で飲食をしたり、ビニール袋を持ち歩くとき、攻撃されやすいです。カラスの繁殖期である4～7月には特に攻撃性が増し、巣の周辺を通る歩行者が襲われることが頻繁に起こります。そのため、市内にはカラスが巣がある並木に注意標識が貼られています。

カラスは知能が高く、人を覚えることもできるので、同じ人を繰り返して攻撃することもあるそうです。また、カラスは後方から飛んできて人の頭を蹴る攻撃をするので、身を守るためには帽子や傘で頭を覆ったり、片腕をまっすぐ上げて歩くのが効果的だと言われています。



北海道には美しい自然が広がっており、その中で人間と動物が共存しているため、公園の散歩中にキツネに遭遇することも、運転中にシカやタヌキなどの動物が突然飛び出してくることも、ここでは日常的な出来事だと思います。道路の所々には動物との衝突注意標識も見られます。最近、北海道ではヒグマが走行中の車両を追いかけて威嚇することも多発しています。動物が好きな方々もいっしょにと思いますが、絶対に好奇心で野生動物に近づいたり、餌をあげてはいけません。



✓ 赤れんが通信
バックナンバーは
こちら



✓ 北海道庁
国際課
FACEBOOK



✓ 編集者・発行先 総合政策部 国際局 国際課
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303